

ワクワク はこね温泉 第4回 「大平台温泉」

菊川城司（神奈川県温泉地学研究所）

はじめに

箱根火山のめぐみによって生まれた箱根温泉について、シリーズでご紹介する4回目です。今回は、箱根二十湯のうち、大平台温泉のおはなしです。

大平台温泉は、箱根火山の塔之沢温泉と宮ノ下温泉のちょうど中間にあたりに広がる段丘にひらけた比較的新しい温泉地で、箱根駅伝の通過する国道1号線のヘアピンカーブや、箱根登山鉄道がスイッチバック方式で運行されることで有名です(図1、写真1～2)。

大平台温泉の歴史

大平台という地名は、むかし大蛇が暴れた際にその尻尾で山が崩れて平になったことから「尾平台」と呼ばれるようになり、それが変化したものだと言い伝えられています。

大平台は、明治22年3月までは大平台村として栄えていました。同年4月、大平台村は底倉村と合併して温泉村となり、昭和31年9月30日に湯本町、温泉村、宮城野村、仙石原村および箱根町が合併して現在の箱根町が誕生してからは箱根町に属しています。

江戸時代に箱根温泉が箱根七湯として親しまれていた当時は、大平台には自然湧出する温泉がないために温泉場としては成立しておらず、箱根細工が盛んに生産されていたそうです。

大平台に暮らす人々もなんとか温

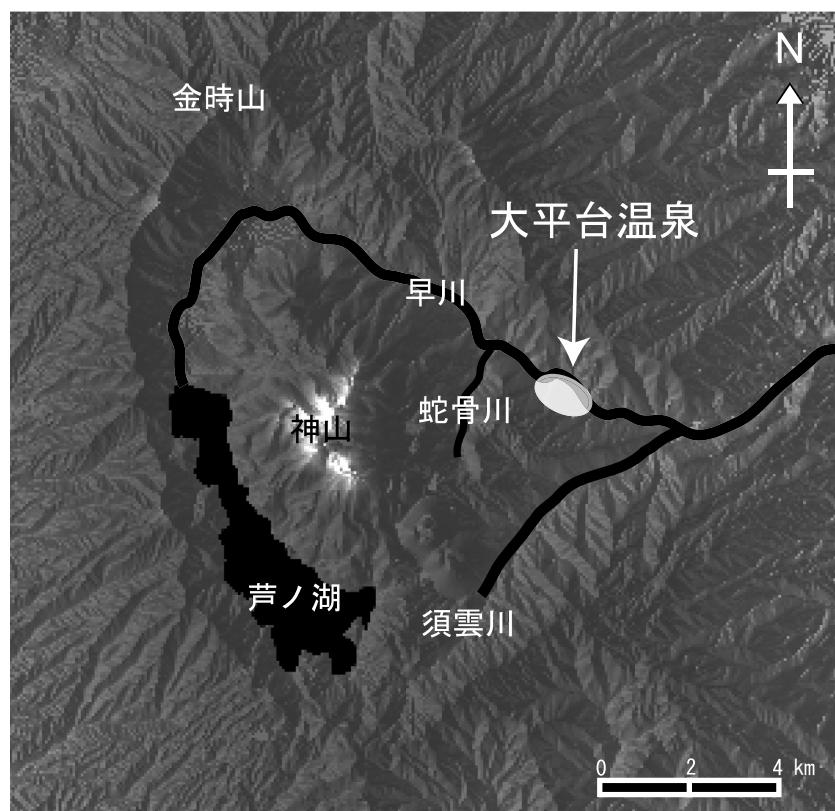


図1 大平台温泉の位置。箱根カルデラの東端、早川沿いに拓けています。

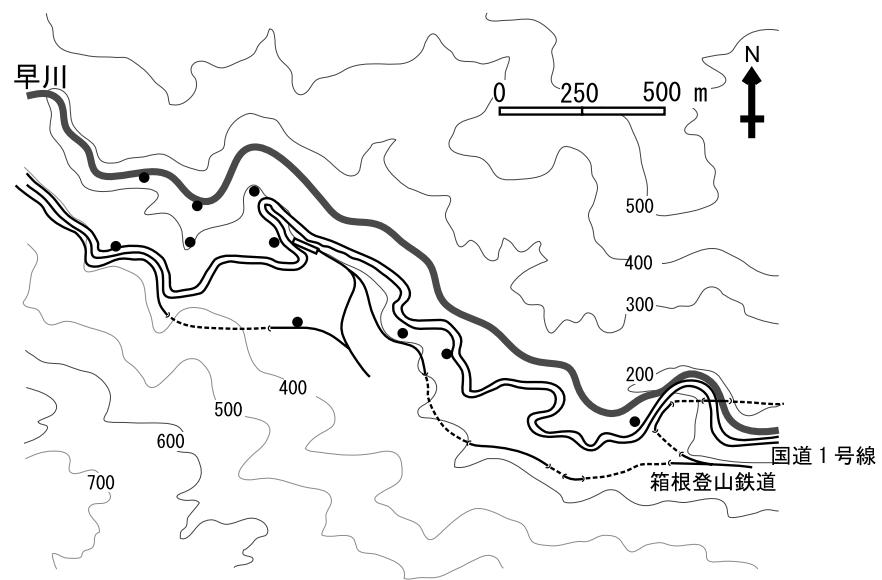


図2 大平台温泉の源泉分布。2008(平成20)年現在。



写真1 国道1号線ヘアピンカーブの先、大平台温泉街の入口に立つ看板。



写真2 上空から見た大平台温泉。山中に開けている様子がよく判ります。写真の上端に見えるのが塔之沢温泉、箱根湯本温泉です。写真下側に進むと宮ノ下温泉になります。



写真3 姫之湯。昭和20年代後半に宮ノ下から引き湯をして開設されました。

泉が出ないものかと考えており、昭和5(1930)年に初めて大平台での温泉掘削にチャレンジしました。しかし、残念ながら冷たい水しか出なかつたということです。その後の何度も失敗を経た後、昭和20年代に大平台温泉組合が結成され、地元ではなく、宮ノ下温泉に新しい井戸を掘削し引湯することとなりました。昭和24(1949)年、宮ノ下で掘削に成功し、湧出した温泉は箱根登山鉄道の軌道に沿って2km以上も引き湯され、その温泉を利用した共同浴場「姫之湯」が開設されました（写真3～4）。長い大変な苦労を経てやっと大平台温泉が生まれたのです。

大平台の地域内で温泉掘削が成功したのは昭和38(1963)年のことです。この井戸は早川の川床で深度700mまで掘削されました。この成功を受けて昭和42(1967)までに

さらに5本の井戸が掘削されました。

大平台温泉の現状

大平台温泉は、国道1号線沿いに拓けた温泉場です。箱根湯本温泉から塔之沢温泉を通り過ぎ、箱根登山鉄道の出山鉄橋脇付近から先が大平台になります。そこからさらに国道を2kmほど登ったヘアピンカーブは、箱根駅伝（東京箱根間往復大学駅伝競争）の山登り、山下りで有名です。その先が大平台温泉の最も賑わう温泉場です。

大平台の旅館や公衆浴場は、標高350m程の段丘状の平面部に集まっています。この平面な土地は、今から4万年以上前に現在の神山付近にあった火山が崩れ、早川に沿って大規模な土石流が起きた際に出来上がったものです。それが大蛇の伝説となって今に伝わっているのです。

表1 大平台温泉の平均値。2008（平成20）年調査による6源泉の平均値です。

項目	平均値
温度（℃）	51.7
揚湯量（L/min）	77.
pH	8.7
電気伝導度（μS/cm）	1516.
ナトリウムイオン（mg/L）	288.
カルシウムイオン（mg/L）	29.3
塩化物イオン（mg/L）	340.
硫酸イオン（mg/L）	178.
炭酸水素イオン（mg/L）	43.5
メタケイ酸（mg/L）	77.2
メチル酸（mg/L）	17.6
成分総計（mg/L）	978.

2010（平成22）年3月末現在、箱根温泉の源泉は全部で351ヶ所ですが、大平台温泉に掘られた源泉はそのうち9ヶ所を占めています（図2）。大平台温泉の宿泊施設数は26ヶ所、公衆浴場数は2ヶ所です



写真4 姫の水。豊臣秀吉ゆかりの湧水といわれています。姫之湯の名前は、この姫の水から付けられました。

が、宮ノ下温泉などから引湯した温泉を利用する施設と大平台に掘削された源泉を利用する施設とが混在しています。

引き湯しているものを除いた大平台温泉の源泉は、海拔標高 195 ~ 356 m に掘削されています。井戸の深さは、680 ~ 850 m の範囲で、箱根の中では比較的掘削深度の深いものばかりです。温泉を汲み上げるための動力としては、エアリフトポンプが 5ヶ所、水中ポンプが 4ヶ所で利用されています。

2008(平成 20)年に大平台温泉の 6 源泉で行われた調査結果をみると、平均値で温度は 51.7 ℃、揚湯量は 1 分間に 77 リットルでした(表1)。

大平台温泉の泉質

大平台温泉でみられる泉質は、2008(平成 20)年の調査によれば、ナトリウム - 塩化物・硫酸塩泉、ナトリウム - 塩化物泉、アルカリ性単純温泉の 3 種類です。温泉に溶けている主な成分はナトリウムイオン、塩化物イオンが多く、次いで硫酸イオンが多くなっています。

大平台の源泉は、箱根湯本温泉や塔之沢温泉と同様に、早川凝灰角礫岩など箱根火山の基盤岩から汲み上げられている温泉です。この基盤岩は、箱根火山ができる前からあった古い地層です。箱根の火山活動が始まったのは今から約 70 万年前ですが、早川凝灰角礫岩はその遙か昔である今から 400 ~ 300 万年前に、海の中でできた地層です。

温泉場を訪れたときには、泉質や効能、禁忌症に注目するだけではなく、その温泉がいつの時代のどんな地層からわき出してくるかに思いをはせて入浴すれば、もっと温泉の楽しみが増えるかもしれませんね。

今回は、大平台温泉について簡単に紹介しました。次回は、堂ヶ島温泉について紹介します。お楽しみに。